

RS-232C Monitor and Analyzer

Model : AKM-RSM-100

実験レポート 3:

スレート PC (ONKYO TW117A4) で

AKM-RSM-100 を動作させてみた

2011 年 5 月 9 日

・このレポートは、弊所製品である AKM-RSM-100 の活用範囲を広げるべく、弊所が独自に行った実験の結果を公開するものです。

【登録商標】

- Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ONKYO は、オンキヨー株式会社の登録商標です。
- その他、このレポートに記載されている会社名、商品名は、各社の登録商標または商標です。

1. はじめに

他のソフトウェア製品の開発のために、スレート PC を入手しました。

現物を見たとき、「物理的なキーボードとマウス無し、タッチパネルのみの状態で、AKM-RSM-100 が普通に使えるかな？」という興味が湧いてきましたので、実際に動作させてみることにしました。

この実験レポートは、スレート PC で AKM-RSM-100 を動作させた場合の具体的な使用感やコメントをまとめたものです。

今回入手したスレート PC は、オンキヨー株式会社さんの「ONKYO TW117A」です。

オンキヨー株式会社さんのスレート PC は現時点で概ね 3 機種出ていますが、これはその中の最下位機種です。

最下位機種といっても、3 機種の内、唯一、それなりの容量（160GB）のハードディスクが付いている（他の機種は 32GB SSD）機種であり、また、USB が 2 ポート付いていますので、AKM-RSM-100 を動作させるのには好都合なスレート PC です。



余談ですが、オンキヨー株式会社さんは、「オンキヨー」なんですね。

この実験レポート作成にあたり、オンキヨー株式会社さんのホームページで会社概要を見るまで、ずっと「オンキョー」（小さい「ヨ」）だと思っていました。

（ちなみに、「ONKYO」の読み方は「オンキョー」だそうです。[商標出願・登録情報検索ページより]）

この業界？に居ながら、「不勉強だった！」と改めて反省した次第です。

2. 注意事項

今回の実験は、特定の PC での AKM-RSM-100 の使用感やコメントですので、特に注意点はありません。

3. 実験環境

工場出荷時状態の「ONKYO TW117A4」へ、単純に AKM-RSM-100 をインストールし、USB-シリアル変換ケーブルを 2 本接続して、それらのドライバをインストールしただけの状態、動作確認しました。

従って、OS は、Windows 7 Home Premium (x86) です。

なお、この実験レポートで使用する画像の便宜上、Windows の画面のテーマは、「Windows 7」にしておきました。

4. 実験結果

まず結論から記述します。

【使用感：良い点】

- ・モニターや Debug 支援機能を動作させることについては、スレート PC でも、ストレス無く操作することができました。
AKM-RSM-100 の、「誰でも簡単に使える操作性」や、「右クリック」することがほとんど無い作り、が、功を奏していると思われます。
(唯一、ポート設定のポート番号選択について、ドロップダウンリストが小さくて選択しづらかったのですが、タッチペンを使うか、ソフトウェアキーボードで入力を行えば、特に問題ありませんでした。)
- ・スレート PC だと、見た目が専用の測定器っぽくて、**結構カッコ良いです。**
→ 自己満足かもしれませんが・・・

【使用感：悪い点】

- ・各種パターンデータの設定は、キーボードを使う操作が多く、スレート PC のソフトウェアキーボードとタッチ操作では、ほぼ無理でした。
→ 気長な人なら、やってできないことはありません。
- ・タッチパネルでは仕方がないとわかっているけど、指で操作すると、やはり画面に付く指紋が結構気になります。
反射防止フィルムを貼っていたのですが、それでも指紋が気になりましたので、フィルム無しでは、さらに気になると思います。

【スレート PC で AKM-RSM-100 を使う場合のアドバイス】

- ・各種パターンデータ（擬似対向、固定データ連続送信、データ置き換え、等）は、予め別の（普通の）PC で作成し、スレート PC へインポートすることをお勧めします。
- ・ロングランモニター時やモニター結果の保存（またはエクスポート）時に、フォルダ名、ファイル名、およびコメントを入力する必要がありますが、これは、画面上に出るソフトウェアキーボードで操作可能な範囲でした。
- ・タッチパネルの指紋対策や、タッチミスを少なくするために、是非、タッチペンを使うことをお勧めします。（TW117A4 は、静電式タッチパネル対応のタッチペンでないと動作しませんので、ご注意を！）
- ・TW117A4 に限ったことですが、標準で付属している専用ケースに入れると、スレート PC が立てて使えるので、とても便利です。（他のスレート PC については、わかりません）
その一方、専用ケースに入れると、2 つある USB ポートの内、1 つが隠れてしまうので、2 ポート使いたい AKM-RSM-100 としては、なんとも痛し痒しなところです。

5. 実験の内容

5.1 実験の構成

DTE 装置と DCE 装置に接続し、AKM-RSM-100 を起動して、ポート接続した状態が、下図です。ポート設定（ポート 1 が COM3、ポート 2 が COM4）は、指タッチでは選択が難しかったので、タッチペンを使いました。その他の部分は、指タッチで選択できました。



5.2 モニターしてみる

早速モニターしてみました。
「スタート」ボタンも、指タッチで操作できました。

DTE 装置と DCE 装置から、双方へ適当なテキストデータを連続で送信している状態をモニターしている状態が下図です。

TW117A4（1024×600ドット）で、AKM-RSM-100 の画面サイズも丁度良いようです。



5.3 残念！ちょっと無理だった各種パターンデータ設定

各種パターンデータの設定は、ほとんどがキーボードで設定する内容なので、気長な人が、「今すぐ使いたいが、ここにはスレート PC しか無い」というような逼迫した環境下でないと、設定を行う気にならないと思いました。

実験結果でも書きましたが、スレート PC で AKM-RSM-100 を使う場合には、各種パターンデータ（擬似対向、固定データ連続送信、データ置き換え、等）は、予め別の（普通の）PC で作成し、スレート PC へインポートすることをお勧めします。

下図は、擬似対向パターンを一覧表で設定している図です。ご参考まで。



やはり、キーボード操作主体の各種パターンデータの設定は、物理的なキーボードが使いたいというのが実感です。

でも、やってやれないことはないです。^^;

6. まとめ

Windows のスレート PC の強みは、何と言っても Windows であることです。

普段使っているアプリケーションがそのまま使えます！

今回、実験しながら、他にもいろいろおもしろい使い方がありそうだと実感しました。

また、今後のアプリケーション開発において、タッチパネルを考慮する場合、工夫するべき点もいくつか抽出することができました。

今のところ、Windows のスレート PC は、かなり機種が限定されています（少ないです）が、きっと、今後増えてくると信じております。

このレポートをご覧の皆様も、機会がありましたら、いろいろ試してみてくださいはいかがでしょうか。

ということで、今回のレポートは、ここまで。